

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日 令和 6年 5月 13日		
② 法人・団体名	一般社団法人 COCORO ごはん		
③所在地	〒〒114-0023 東京都北区滝野川 3-24-1 (我妻気付)		
③ 責任者氏名	我妻澄江	(役職名等)	代表理事
④ 担当者氏名	引間亜希子	(役職名等)	事務局

【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R05-009	⑦助成金額	100万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	COCORO 学習支援事業 (学習室・長期休業居場所/自習室/mini こども食堂/プログラミング教室)				
⑩主な実施場所	馬場自治会館・馬場ふれあい館				

⑪活動内容とその成果の概要 (詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。)

▶COCORO 学習室 (学習室計 47 回+都立高校受験対策 19 回+長期居場所事業 32 回)

対象と内容：基本、通塾していない地域の小中学生を対象に、学習支援と居場所提供
・夏休み・冬休み・春休み等の長期休暇の平日に開催し、食事と居場所を提供。

▶COCORO 自習室 (自習室計 35 回、中学定期考査 4 回/年中 3 回分助成申請)

対象と内容：地域の中学生対象に定期試験前の学習を支援

・大学生・社会人講師が、必要な生徒にはほぼマンツーマン体制で学習を支援 (夜食提供)

▶mini 子ども食堂 (mini 子ども食堂 21 回)

対象と内容：COCORO 学習室に日通えない子どもと日常的にサポートが必要な家庭対象

・2023 年から子ども食堂を開催しない水曜日開催、食事を提供し、学習支援。

▶プログラミング教室 (プログラミング教室 20 回)

対象と内容：学習支援教室に登録している小・中学生

・学校から貸与のタブレットを使い、この先の IT 社会に通るスキルを身につける。

⑫奨学活動の定量的把握 (注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。)

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	1,102	3	3,306	
高校生等	81	3	243	高校生講師含む
大学生等	386	3	1,158	大学生講師含む
学習支援員等	340	2	680	社会人講師
その他	1,140	4	4,560	スタッフ、ボランティアスタッフ含む
合計			9,947	

⑬その他の定量的な数値 [滝野川子ども食堂,東京都北区,COCORO ごはん \(t-kodomosyokudo.com\)](http://t-kodomosyokudo.com)

令和 5 年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

COCORO 学習支援事業

(学習室・長期休業居場所/自習室/mini こども食堂/プログラミング教室)

法人・団体名：一般社団法人 COCORO ごはん

作成者 氏名：引間亜希子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【目的】

温かい食事や会話をきっかけに、地域の子どもや子育て中の家庭とつながり、学校・家庭の問題を一緒に解決する。

【実施内容】

○学習サポート

学習に問題を抱えた子ども達が、それぞれが望む進路に向かえるよう、元教員、社会人、大学生等を講師に学習支援を行う。

○長期居場所事業

ひとり親世帯では非正規雇用の親が多く、仕事と家計が直結している。長期休暇中の居場所は親にとって死活問題。十分な学習環境を享受できていない子どもの居場所を、食のサポートとともに提供する。

○ファミリープログラム

子どもについての困りごとを当事者と一緒に解決に向けたサポート（アウトリーチ型）を行う。

2. 実施した奨学活動の詳細

OCOCORO 学習室【奨学対象事業】

学習室

15名登録：計47回（毎週木曜日：約2時間）

都立高校受験対策

6名登録：19回（10月～主に火・土・日曜日、スピーキングテスト対策・ヒアリング対策含：約2時間）

長期居場所事業

25名登録：32回（夏休み・冬休み・春休み等長期休暇の平日、終日）

対象と内容

- 塾に通っていない地域の小中学生を中心に、学習支援と居場所提供
- ・養護教諭から紹介のあった家庭や母子家庭、不登校等の子ども等、当団体が学習のサポートが必要と判断した子どもが登録。
 - ・食事と居場所を提供。



* 都立高校受験対策



* 苦手な教科は少人数でフォロー



* 夏休み居場所事業・休憩時間は皆でボードゲーム

OCOCORO 自習室【奨学対象事業】

自習室

10名登録：計35回

(中学定期考査4回/年中3回助成対象期間、平日：約3時間、休日：終日)

対象と内容

地域の中学生対象に定期試験前の学習を支援

・都立高校を目指す子どもたちには、定期考査や事前の課題提出がとても重要。ワークや過去問題を中心に、大学生・社会人講師が、必要な生徒にほぼマンツーマン体制で学習を支援（平日は夜食提供）。

Omini 子ども食堂【奨学対象事業】

mini 子ども食堂

12名登録 21回（第1, 3水曜日：約2時間）

対象と内容

COCORO 学習室に日程的に通えない子どもと日常的にサポートが必要な家庭対象

・食事を提供し、学習支援実施。



〇プログラミング教室【奨学対象事業】

プログラミング教室（共催：NPO法人プログラミング教育研究所）

7名登録：20回（第1, 3水曜日：約1時間）

対象と内容

学習支援教室に登録している小・中学生

・学校から貸与のタブレットを使い、この先のIT社会に通るスキルを身につける



〇ファミリープログラム【奨学対象事業】

16家庭（こども27名）

対象と内容

こどもからの「困った」に地域の財産とチームを組み、早期対処することで問題の深刻化を防ぐ。

登校支援、不定期で制服や学用品等の物品調達支援、習い事の引率、催し物の参加、選択・清掃支援、高校見学引率など。

【周知方法】

- ・助成対象事業に関しては非公開なため、周知せず
- ・近隣小中学校との連携や、運営する子ども食堂でスタッフが必要と思われる子どもに声をかけ参加を促している。
- ・公開事業である子ども食堂（奨学非対称事業）はFacebookなどで開催の周知をしている。

【協力いただいた関係者】

- ・北区社会福祉協議会
- ・北区子ども未来課
- ・NPO法人プログラミング教育研究所
- ・地域自治会

・地域の学生ボランティア他

【地域やボランティア活動との連携】

○学校との連携

- ・地域の小中学校とは常に連携。学校で問題行動のある子どもや、児童相談所が絡む家庭など学校から依頼を受け子ども食堂をツールに各家庭とコンタクトを取った。
- ・当団体の活動状況を定期的に学校に伝え、一緒に解決策を探り、双方向での連携を図った。

○北児童相談所および子ども家庭支援センターとの連携

- ・問題のある家庭を情報共有し、継続してフォローしている。児童相談所に一時保護されてしまうと学区の学校へ通うことが出来なくなる為、できるだけ環境を変えず安心して生活できるよう、また事が大きくなるないように問題の早期発見・早期解決に向け活動している。

○学生ボランティア団体の受け入れ

- ・地域の大学や「北区 NPO・ボランティアプラザ」と連携し、体験学習の学生やボランティア希望の学生を定期的に受け入れ、子ども達の良き遊び相手として活躍して頂いている。

【学習支援員について】

○学生講師

- ・登録している大学生講師の多くが、小学生より関わっていたメンバー。
- ・地域で子育てするサイクルを回すことも目指している。
- ・学生講師は、教員や精神保健福祉士、心理士等を目指す。
- ・問題を抱えた子が学習する意欲を持つには、学習の指導だけでなく、一人ひとりの状況に合わせて寄り添うことが必要とされ、学生たちはそんな子どもたちに忍耐強く寄り添い、子ども達から信頼されている。近い将来のロールモデルとして、欠かせない存在。

○社会人講師

- ・元学生講師や元教員、元 COCORO 学習室に通っていた子どもの保護者を中心に、当団体の活動に賛同した地域住民からのサポートを得ている。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

【成果】

- ・高校受験 サポート 6 名の進路状況—いずれも **第一希望合格**
- 私立高校 推薦合格 2 名
- 都立高校 合格 4 名

- ・COCORO 自習室での定期考査による成績 UP
基礎学力が定着できないメンバーも多かったが、苦手教科も皆で学び教えあうことで、最後は全員で受験に向かう事が出来た。
都立高校受験では定期考査の成績が大きく影響するため、副教科を含めた 9 教科のレッスンも行い、内申点 UP につなげた。



◎デッサン指導
美大卒の会員が、鉛筆の使い方や陰影の付け方をじっくり指導

- ・プログラミングコンテスト受賞



[プログラミング教育研究所 \(j-code.org\)](http://j-code.org)

プログラミング教室メンバーが「審査員賞」受賞



・購入した物品（置型 WIFI）

【課題】

- ・早期の基礎学力定着の必要性

漢字/計算は小学校からの蓄積なので、中学1年での段階で躓くとリカバリーが難しい。

最終的に成果が出はじめた頃に高校受験を迎えたが、小学生からの早期の基礎学力の定着が求められる。

- ・英語レッスン継続の重要性

現中学3年生は、1年の頃から定期考査前の自習室で定期的に短時間英語レッスンを実施していた。

最終的に成績に結び付いたものの、その必要性を自覚するまでに時間を要した。

英語に限らず、短期記憶だけでは学力に結び付きにくい教科は、講師・場所・時間を確保して、継続したサポートが求められる。

- ・安定的な食・学習サポート提供への人材確保

年々事業拡大とともに開催回数も増え、スタッフの負担も増えている。

また学生・社会人講師の人員確保も継続的なサポートのためには必須。引き続き、長期的な人材確保に努めたい。

- ・事業規模拡大に伴うステップアップ

子ども達の成長に合わせ、更なるステージでのサポートが当団体へ求められ、この先の事業範囲の拡大が見込まれる。今後も、事業に合わせたスタッフの更なるスキルアップを目指したい。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

以下、助成に感謝

- ・今年度は過去最高の高校受験者を抱え、例年以上の学習サポートが求められた。

また、個々の学力や背景が違う中、それぞれに合ったサポートが必要であったため、講師陣の人材確保は急務であった。

頂いた助成で、現塾講師の大学生など受験対策のノウハウを持つ人材確保につなげることが出来た。

- ・念願であった WIFI 置型ルーターを設置することが出来た。

タブレットの活用は、日々の宿題や定期考査の範囲に組み込まれ、この先の社会で必須のスキルとなる。

安定的な電波受信から、オンライン教材の活用につなげることも出来た。